東京都写真美術館では、映像工夫館展「ミュージックビデオ／新しい感受性をのせて」を開催いたします。ミッシェル・ゴンドリー、クリス・カニンガム、スパイク・ジョーンズ、マイク・ミルズ、マーク・ロマネックに代表される現代のミュージックビデオは、もはや商業的なプロモーションの枠を超えています。それは未来の表現の可能性を秘め、新しい感受性の体現となっています。時に「映像」は「音楽」の世界を挑戦的に崩しにかかり、歩み寄り、お互いを認め合いながら、緊張感をたたえています。また、その影響はミュージックビデオだけにとどまらず、映画やその他の映像表現へ絶えず影響を及ぼしています。本展では、クリエイティブ・ディレクター寺井弘典氏（P.I.C.S.）／林永子氏の企画協力を得て、革新的なアイデアによって発明とも言うべき映像世界を作り上げたゴンドリーらの海外作品に加え、国内外で評価の高まる日本のミュージックビデオ表現についても紹介します。この試みによって、映像と音楽との新しい共存を体験していただければ幸いです。

東京都写真美術館

## ムジーク ノン ストップ―逸脱する表現／拡張するミュージックビデオ

映像や音楽を浴びつつ'80年代を過ごした者にとって、ミュージックビデオ（MV）は確立された表現メディアに他ならない。早くからMVに取り組んだデヴィッド・ボウイ、クレイアニメやパペットを駆使したピーター・ガブリエルやハービー・ハンコック、CGを競ったマイケル・ジャクソンやマドンナのMV――それらを超えていまビヨークらの作品を手がけるミッシェル・ゴンドリーやクリス・カニンガムらは、現代美術をも攪乱している。では、それを見る「場」は確立されただろうか。単なるシアター上映やヘッドフォンで孤立したブース展示の中に、奔放な表現は押し込められていないだろうか？ 本展において、MVは映像のワクから飛び出し、空間的インスタレーションとなる。海外で評価の高い日本のクリエイター作品、立花ハジメや明和電機らのMV、中尊寺ゆつこらのウゴウゴルーガ「こんしゅうのどうよう」やグルーヴィジョンズらの「カラオケ」まで――カテゴリーを逸脱し拡張するMV特集も待たれている。レベッカ・アレンが先駆的なCGを手がけたクラフトワークの「Musique Non-Stop」で彼女自身の声が語るように、映像と音楽の共存はもう止むことがない。

森山 朋絵（東京都写真美術館学芸員）

## ミュージックビデオ―新しい感受性の器

「～すでに『ムーブメント』や『イズム』がなくなっていること、そしてその代わりとして新しい『感受性』が重要になる～」とMOMAの建築・デザイン部長テレンス・ライリー氏が言うように、21世紀以降広く共有できるものは、理念やスタイルでもない感受性なんだという主題が浮上してきたのはこの'90年代後半以降だと思われる。だが、それを先にミュージックビデオは予見していたにもかかわらず'80年代には顧みられることはなかった。'90年代にはいると映像デジタル技術の革新により様々な映像表現のトライアルがMVの中で試され、たくさんの才能が出現し、MV、CM、映画メディアを縦横無尽に活躍することになる。ミュージックシーンのトレンドが何周も様変わりしていくなかで、MVというメディアを自分がジャックしたと実感できるような感受性に満ち溢れている革新的なMVが登場してくる。その予兆はマーク・ロマネックやジョナサン・グレーザーのMVに顕著に見られ、'90年代後半にミッシェル・ゴンドリー、スパイク・ジョーンズ、クリス・カニンガムの登場で決定的になる。彼等以降と以前では明らかに映像表現の感受性が変化し、それに呼応するように日本のミュージックビデオ界でも新しい感受性をもった表現者達が登場してくる。MTVが'82に開局して以来20年が過ぎた現在、MVに内包されたさまざまなみずみずしい感受性たちを実感し検証してみたい。

寺井 弘典（P.I.C.S.クリエイティブディレクター）

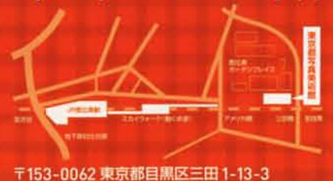
**映像関連ワークショップ**
**「体験！ 映像プロジェクト／ショーイング&プレゼンテーション」**
ミュージックビデオ展にあわせ、映像分野のアーティストやプロデューサーによるショーイングを行い、企画プレゼンテーションを体験します。

ゲ ス ト：ナガオカケンメイ（プロデューサー・2月1日）／寺井弘典（映像クリエータ・2月2日）
日　　時：2003年2月1日（土）・2日（日） 両日とも13:00～17:00
場　　所：B1F・映像展示室／1F・創作室
参 加 費：両日とも1000円（展覧会チケット代を含みます）
申 込 み：2003年1月24日（金）必着
※追加募集についてはワークショップ係までお問合せください。


映像工夫館展 ミュージックビデオ／新しい感受性をのせて
主　　催：東京都／東京都写真美術館
制　　作：東京都写真美術館／P.I.C.S.
編　　集：森山朋絵＋三井圭司（東京都写真美術館）／寺井弘典（P.I.C.S.）／林永子／藤本健太郎
デザイン：藤本健太郎
印　　刷：（株）シロトリ
発　　行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2002
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL:03-3280-0099 FAX:03-3280-0033
MUSIC VIDEO: A Vehicle for New Sensitivity
Organized by Tokyo Metropolitan Museum of Photography. Produced by Tokyo Metropolitan Museum of Photography / P.I.C.S.
Edited by Tomoe Moriyama, Keishi Mitsui (Tokyo Metropolitan Museum of Photography) / Hironori Terai (P.I.C.S.) / Nagako Hayashi / Gentaro Fujimoto
Designed by Gentaro Fujimoto. Printed by SHIROTORI Co.Ltd.
Published by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, Tokyo Metropolitan Museum of Photography©2002
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062, Japan. http://www.tokyo-photo-museum.or.jp
Printed in Japan

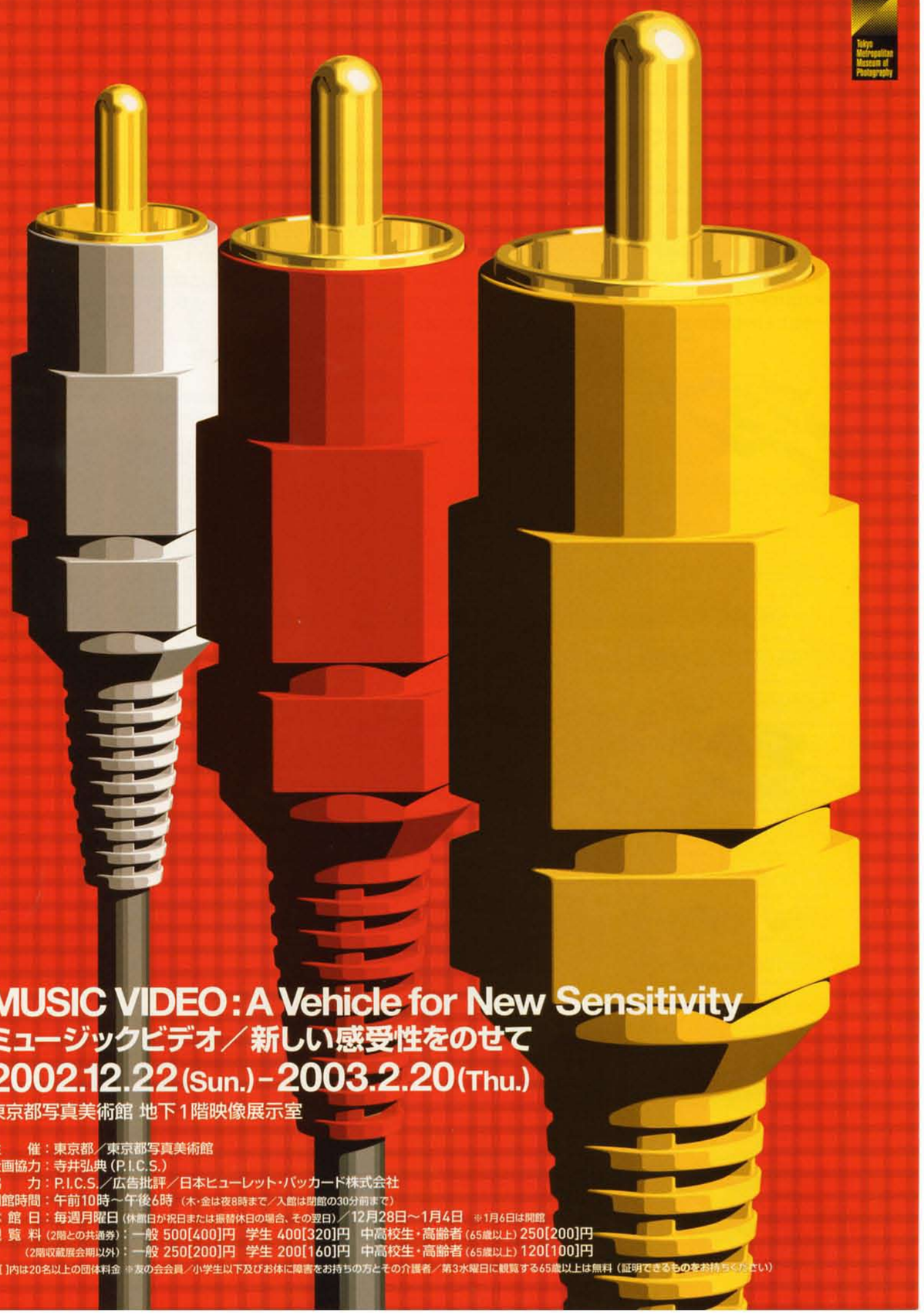


東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography


〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
http://www.tokyo-photo-museum.or.jp
TEL:03-3280-0099 FAX:03-3280-0033


交通機関：JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分
当館に専用駐車場はありません。お車でご来館の際は恵比寿ガーデンプレイス内の駐車場をご利用ください。



# MUSIC VIDEO: A Vehicle for New Sensitivity
# ミュージックビデオ／新しい感受性をのせて
# 2002.12.22 (Sun.) – 2003.2.20 (Thu.)

東京都写真美術館 地下1階映像展示室

主　　催：東京都／東京都写真美術館
企画協力：寺井弘典（P.I.C.S.）
協　　力：P.I.C.S.／広告批評／日本ヒューレット・パッカード株式会社
開館時間：午前10時～午後6時（木・金は夜8時まで／入館は閉館の30分前まで）
休 館 日：毎週月曜日（休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日）／12月28日～1月4日　※1月6日は開館
観 覧 料（2階との共通券）：一般 500[400]円　学生 400[320]円　中高校生・高齢者（65歳以上）250[200]円
（2階収蔵展会期以外）：一般 250[200]円　学生 200[160]円　中高校生・高齢者（65歳以上）120[100]円
※[ ]内は20名以上の団体料金 ※友の会会員／小学生以下及びお体に障害をお持ちの方とその介護者／第3水曜日に観覧する65歳以上は無料（証明できるものをお持ちください）

# MUSIC VIDEO: A Vehicle for New Sensitivity
# ミュージックビデオ／新しい感受性をのせて
# 2002.12.22 (Sun.) – 2003.2.20 (Thu.)

## ミュージックビデオって何？

ミュージックビデオ（MV）はアーティストが作曲した「楽曲」に対して、映像の作り手が発想し制作するCDセールスを目的とした商用宣伝広告映像のことを指します。主に音楽チャンネルなどで放送されることにより商用宣伝広告としての機能をはたしてきました。それは、'80年代からの北米でのCATVの普及により音楽の視聴特性を聞くものから見るものに変化させ、各国の音楽チャンネルの開局、衛星放送のスタートにより爆発的な広がりをみせました。その自由闊達な表現がMVに内包されるその時代の気分や意志、いわばその時代の感受性のようなものを視聴者達が共有することでファッションやライフスタイルまで影響を及ぼす事になりました。「音楽」と「映像」の出会いは、映像メディアの表現力にインスピレーションやパワーを与え、絶えずそれが新しい映像表現手法を開発する原動力になってきました。「音楽」にインスパイアされた、MVの柔軟かつ大胆なクリエイティビティが、驚くことに未来のユビキタス&ウェアラブルな情報空間を構築していたり、新しいコミュニティのイメージを予見していたり、さまざまな来たるべき世界のメタファーのヒントが読み取れたりします。これはまさにMVが現代の黙示録とでも言えるのではないでしょうか。

寺井弘典（P.I.C.S.）／林 永子

## 拡張するミュージックビデオ ― 新しい感受性たちとの出会い

2002年12月現在における作品の中から洋邦問わず約70曲あまりチョイスしました。美術館という「場」でそれらを凝視することで、新しい感受性の反応を体験していただければと思います。上映時間は約7時間に及びます。何度か足を運んでいただいて、ゆったりとご覧下さい。

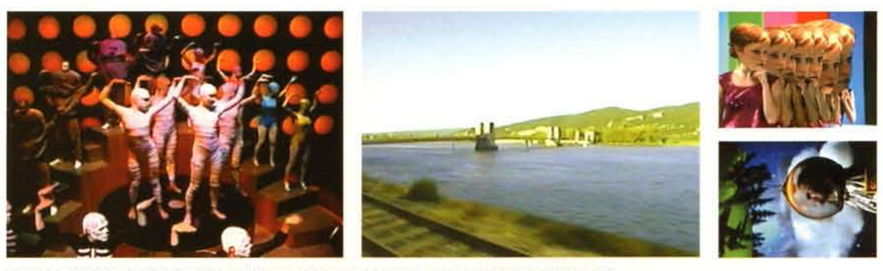
左：Kraftwerk / MUSIQUE NON STOP（クラフトワーク／ムジーク ノン ストップ）Director: REBECCA ALLEN（レベッカ・アレン）東芝EMI / 1986
中央：The Rolling Stones / LOVE IS STRONG（ローリングストーンズ／ラブ イズ ストロング）Director: David Fincher（デビット・フィンチャー）東芝EMI / Virgin / 1994
右上：RADIOHEAD / KNIVES OUT（レイディオヘッド／ナイヴズ アウト）Director: Michel Gondry（ミッシェル・ゴンドリー）東芝EMI / 2001
右下：AIR / How Dose It Make You Feel（エール／ハウ ダズ イット メイク ユー フィール）Director: Antoine Bardou-Jacquet + Romain Guinon（アントニー・バルドー・ジャック＋ロマン・ユイノン）東芝EMI / Virgin / 2002

## ミュージックビデオ表現の革命者 ― ミッシェル・ゴンドリー・レトロスペクティブ

現在のミュージックビデオ界を代表する映像作家ミッシェル・ゴンドリーを特集します。彼の作品は表現技法の限界を押し広げようとするチャレンジに満ちており、その革命的なアイデアはミュージックビデオの枠を超えて影響を与え続けています。「ストップタイム」や「ズームモーフ」と呼ばれる、近年の映像表現には欠かせない技法もまた彼が考案したものです。そういった新しい感受性の結晶と言うべき作品を、じっくりと体感して下さい。

ミッシェル・ゴンドリー　Michel Gondry
1963年、フランスに生まれる。美術学校時代に自ら所属していたバンドOui Ouiのミュージックビデオを初監督し、その後数々の作品を世に生み出す。ビヨークやダフトパンク、ケミカルブラザーズといった一流アーティストのビデオを演出。彼の作品はミュージックビデオの枠を超えて、様々な映像作品へも影響を与え続けている。

協力：財団法人NHKサービスセンター



左：Daft Punk / AROUND THE WORLD（ダフトパンク／アラウンド ザ ワールド）Director: Michel Gondry（ミッシェル・ゴンドリー）東芝EMI / Virgin / 1997
中央：The Chemical Brothers / STAR GUITAR（ケミカルブラザーズ／スター ギター）Director: Michel Gondry（ミッシェル・ゴンドリー）東芝EMI / 2001
右上：The Chemical Brothers / LET FOREVER BE（ケミカルブラザーズ／レット フォーエヴァー ビー）Director: Michel Gondry（ミッシェル・ゴンドリー）東芝EMI / Virgin / 1999
右下：Bjork / HUMAN BEHAVIOUR（ビヨーク／ヒューマン ビヘイヴィアー）Director: Michel Gondry（ミッシェル・ゴンドリー）UNIVERSAL INTERNATIONAL / 1993

## 日本のミュージックビデオ表現 ― 日本のミュージックビデオプロダクション

日本の映像作家たちによるミュージックビデオは、海外でも注目され、高く評価されています。ミュージックビデオプロダクションの活動とオリジナル作品を紹介します。

参加プロダクション一覧：株式会社オクナック／ゴイス株式会社／株式会社ザ・セカンド／株式会社セップ／有限会社バース／株式会社ピクス

## 音と映像の革命

既存の映像概念を超え、新映像世紀の幕明けを予感させる、ミュージシャンと映像クリエーターによるコラボレーション作品です。迫力あるサウンドとともにここで体感してください。

### SCANNING OF MODULATIONS　スキャニング オブ モジュレーションズ

リミュエール兄弟から続く映画100年の歴史から解放された、実験映像の今世紀的解釈。

監　　督：宇川直宏
配　　給：アップリンク・ファクトリー
製　　作：Viewsic
上映期間：12月22日(日)～12月27日(金)
1月15日(水)～1月19日(日)
1月28日(火)～2月2日(日)
2月11日(火)～2月16日(日)

### コーネリアス「DROP-DO IT AGAIN」　ドロップ・ドゥ イット アゲイン

コーネリアス「DROP」の5.1chリマスタリングバージョン。

監　　督：辻川幸一郎
協　　力：3Dコーポレーション
機材協力：オタリテック株式会社
上映期間：1月5日(日)～1月13日(月)
1月21日(火)～1月26日(日)
2月4日(火)～2月9日(日)
2月18日(火)～2月20日(木)

## 作品リスト

### 洋楽

| | | |
|---|---|---|
| A-ha | 「TAKE ON ME」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| AIR | 「How Dose It Make You Feel」 | 東芝EMI / Virgin |
| AIR | 「Radio #1」 | 東芝EMI / Virgin |
| Aphex Twin | 「COME TO DADDY」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| The AVALANCHES | 「Frontier Psychiatrist」 | TOY'S FACTORY |
| Badly Drawn Boy | 「Disillusion」 | TOY'S FACTORY |
| BEASTIE BOYS | 「SABOTAGE」 | 東芝EMI |
| Beck | 「The New Pollution」 | UNIVERSAL INTERNATIONAL |
| Bentley Rhythm Ace | 「Theme from Gutbuster」 | EMI Records |
| Blur | 「Coffee & TV」 | EMI Records |
| BS2000 | 「BUDDY」 | 東芝EMI |
| Cassius | 「CASSIUS 1999」 | 東芝EMI / Virgin |
| The Chemical Brothers | 「LET FOREVER BE」 | 東芝EMI / Virgin |
| The Chemical Brothers | 「STAR GUITAR」 | 東芝EMI |
| Coldplay | 「Don't Panic」 | 東芝EMI |
| COLDCUT | 「TIMBER」 | TOY'S FACTORY |
| DAFT PUNK | 「AROUND THE WORLD」 | 東芝EMI / Virgin |
| DAFT PUNK | 「ONE MORE TIME」 | 東芝EMI |
| Deee-Lite | 「GROOVE IS IN THE HEART」 | eastwest Japan |
| DOVES | 「There Goes The Fear」 | 東芝EMI |
| GARBAGE | 「PUSH IT」 | BMG International |
| GORILLAZ | 「CLINT EASTWOOD」 | 東芝EMI |
| Janet Jackson featuring Q-Tip | 「GOT 'TILL IT'S GONE」 | 東芝EMI / Virgin |
| Kraftwerk | 「MUSIQUE NON STOP」 | 東芝EMI |
| MADONNA | 「What It Feels Like for a Girl」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| Marilyn Manson | 「The Beautiful People」 | UNIVERSAL INTERNATIONAL |
| RADIOHEAD | 「KARMA POLICE」 | 東芝EMI |
| RADIOHEAD | 「KNIVES OUT」 | 東芝EMI |
| RADIOHEAD | 「BLIPS」 | 東芝EMI |
| RADIOHEAD | 「PYAMID SONG」 | 東芝EMI |
| R.E.M. | 「Imitation Of Life」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| R.E.M. | 「MAN ON THE MOON」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| The Rolling Stones | 「LOVE IS STRONG」 | 東芝EMI / Virgin |
| UNKLE | 「RABBIT IN YOUR HEADLIGHTS」 | TOY'S FACTORY |

### 邦楽

| | | |
|---|---|---|
| ACO | 「悦びに咲く花」 | Ki/oon Records |
| AJICO | 「美しいこと」 | speedstar |
| 石野卓球 | 「Polynasia」 | Ki/oon Records |
| 井上陽水 | 「花の首飾り」 | FOR LIFE |
| UA | 「閃光」 | speedstar |
| EGO WRAPPIN' | 「くちばしにチェリー」 | Universal J ISLAND |
| SBK | 「Why don't you come to my place?」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| キセル | 「ハナレバナレ」 | speedstar |
| ギターウルフ | 「UFOロマンティクス」 | Ki/oon Records |
| KICK THE CAN CREW | 「マルシェ」 | east west Japan |
| キリンジ | 「ムラサキ☆サンセット」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| クレイジーケンバンド | 「GT」 | Double Joy Records / SUBSTANCE |
| GRAPEVINE | 「ドリフト160（改）」 | PONY CANYON |
| CORNELIUS | 「I Hate Hate」 | TRATTORIA/POLYSTAR RECORDS |
| CORNELIUS | 「DROP」 | TRATTORIA/POLYSTAR RECORDS |
| CORNELIUS | 「TONE TWILIGHT ZONE」 | TRATTORIA/POLYSTAR RECORDS |
| 54-71 | 「beyo～nd」 | LASTRUM |
| スーパーカー | 「YUMEGIWA LAST BOY」 | Ki/oon Records |
| スガシカオ | 「8月のセレナーデ」 | Kitty MME |
| スケボーキング | 「YOU ARE GOD」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| 砂原良徳 | 「LOVEBEAT」 | Ki/oon Records |
| TAKKYU ISHINO featuring TABITO NANAO | 「ラストシーン」 | Ki/oon Records |
| DABO | 「D.A.B.O.～場外ホーマー～」 | Def Jam Japan |
| DJ TASAKA | 「STREET STARS BREAKIN'」 | Ki/oon Records |
| DATE COURSE PENTAGON ROYAL GARDEN | 「PLAYMATE AT HANOI」 | P-VINE RECORDS |
| 電気グルーヴ | 「Nothing's Gonna Change」 | Ki/oon Records |
| FANTASTIC PLASTIC MACHINE | 「TAKE ME TO THE DISCO」 | HEAT WAVE |
| FANTASTIC PLASTIC MACHINE | 「BEAUTIFUL DAYS」 | cutting edge |
| MISIA | 「Don't stop music!」 | Rhythmedia Tribe |
| Mr.Children | 「君が好き」 | TOY'S FACTORY |
| MO'SOME TONEBENDER | 「HigH」 | Universal J ISLAND |
| RIZE | 「02」 | Epic Records |
| RIP SLYME | 「BLUE BE-BOP」 | WARNER MUSIC JAPAN |
| little creatures | 「mosquito curtain」 | FAITH RECORDS |
| REVOLVER FLAVOUR | 「REVOLVER FLAVOUR」 | TOY'S FACTORY |
| ROVO | 「SINO」 | P-VINE RECORDS |

＊一部、追加される作品もあります。あらかじめご了承ください。
＊上記の曲順は、実際の上映順とは異なります。